

毎月一回十五日發行（定價一部五錢一年郵稅共五十錢）



和 清 山 香 兼 編 行 發
市 川 上 野 長 所 行 發
校 學 門 專 曲 市 田 上 野 長 所 刷 印
會 社 刊 報 印 澤 中

先づ坐つて考へて

石倉新十郎

淺間山が大爆發しても人心が動揺したと云ふことはない。それ程に人が慣れ過ぎて居るからである。櫻島が曾て大噴火した時は鹿兒島その外周囲では皆な恐怖の幾日かを過した筈である。其れは全く初ての珍事であつて、引續く爆發が附か先果して何うなることが全々見當が附かなかつたからである。斯様に未曾有の出来事に會ひ目前には悪い情勢のみ現れて、前途少しも見透しの附かない時には、人は不安に震はれ悲觀に陥り、正しい思慮さへ失ふ様になるのは止むを得ないことであらう。斯かる際にも猶平然として思慮を誤らず、情勢を察して適處し得る人は甚だ稀れである。斯る人は即ち達人であらう。上に達人が居らざる限り斯かる際部下は恐懼に度々失つてしまひ反つて事態を悪化するのが常である。

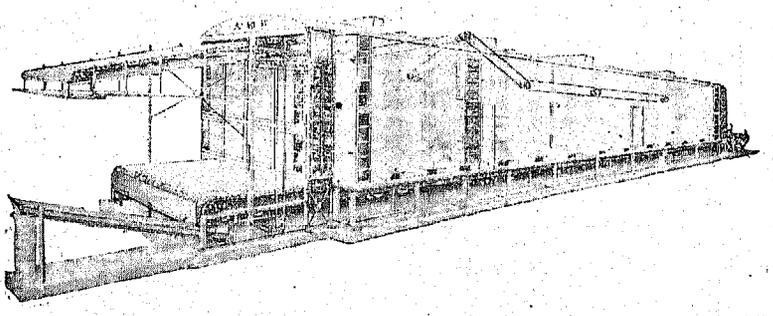
數年前蠶絲業界空前の大恐慌が襲來した時業界舉げて恐愕し大動搖したのは未だに忘れ得ぬ所である。特に調査使節を米國に派遣して急激なる生絲消費減退の原因を調査したり、爾後の消費趨勢を洞察せしめたりした結果、すつかり人絹の威力に脅嚇され、全く萎縮病に罹つてしまつた。最も震撼し度を受けたのは長野縣を初め各地の蠶絲實業大家達であつたのである。そして學者に或は政治家に其の對策を求めたのであるが誰一人として明朗化するべき方策あるものなく、悲惨慘愴實に見るに忍びずと云ひたい程であつた。そして殆ど皆な悲觀に陥つてしまひ最早我が蠶絲業は年と共に衰退窮極は潰

斯うも將來の見極めが附かなくなると不安は悲觀に、果ては絶望的嘆聲が出て來る様になるのは全く前と同野の上にあるからである。本校製絲科卒業生の就職状態を心配する餘り、此際寧ろ製絲科を廢止して絹絲化學科に轉向するが適切であらうと云ふ珍説が發表された。然し之れは本校職員からの創作的發言でなかつたのは幸とすべきであらうが、曾て一度吃驚して躍り揚つた人からは躍り揚る癖のある人であるだけに周囲からの刺戟が餘りに強過れば其れを又繰り返す恐れがないとは云はれない。針塚校長の去られた現在では尙更ら考ふべきであり、誰もが一層自重すべきではなからうか。

蠶絲業の根柢を爲す絹絲の生産を見るに其の發生根原は自然にあるのである。自然を根原とする産業に就いて曾て人工が自然にうち勝つた例はない。それは自然に多く據る程生産は經濟的であるからである。金や金剛石は人工でも造り得るのであるが、今もなほ山を掘り崩して居るのは人工の經濟的敗北を示現したものである。樟腦や藍は自然物から抽出轉化した物質であつて、人工的に容易な道程を採つた方が勝ちを占めたのである。例へば汽船が清水を得んとするのには海水を蒸溜するより水山の雪を融した方が經濟的捷徑であつたと同様である。理研酒や人絹は欺似物であつて本質的に全く別物の物が利用價值を失つた例は未だ曾て聞いた事がない。

太古の人類が衣服に利用した纖維は麻類に限られた事は既に學者の定論である。其の後綿羊毛が利用されるに至つては其の爲めに麻類の利用が無くなつたわけではなく、又木綿が紹介されて普遍的に使用されるに至つても舊來の麻類毛等の利用が減少したことを聞かず、反つて各々の特性が認められ利用範圍を擴大して來たのは事實である。人絹の發明以來其の利用は世界的に異狀の振興を來したのであるが、之れに壓倒されて他の纖維の生産が縮少せしめられたことは未だに無い。寧ろ各纖維は其の特性を益々發揮せしめ居るのである。斯くして凡ての纖維は人類と共に永遠の生命を保持するのである。將來或は蠶を溶して絹絲を人絹式に製造する事が出来るかも知れないが、人工は常に自然に對して經

現代乾繭機界ノ王座 大和式自動輸送乾繭機



【各種型錄贈呈】

二五九八年代表型

製作發賣元 株式會社 大和三光商會
東京京橋區京橋三丁目二番地 電話京橋(56)五三二〇番

營業課目
特許大和式自動輸送乾繭機
特許大和式自動人絹乾燥機
特許帶川三光式乾燥機
特許やま・十・ホ・式・水・過・淨・湯・吸・器
特許サンコー式廢湯高壓ポンプ
特許サンコー式
特許

濟的に敗北するものが天則であるから製絲は永遠に亡ぶ事のない存在である。現今の製絲は生絲の輸出を本義として成り立つて居り、其の生産階梯は極めて簡單にして機械的工業としては他に比較して甚だ單純である。そして從來學術的に研究された所も餘り弘がらず且つ多からず、現在なほ高等教育としての専門的主要課程は稍々貧弱たるを免れないであらう。斯くの如く製絲が獨り取り残された形に置かれた所以は妙なることに從來之れが農業扱ひされ來つたからである。昔の農商務省今の農林省の農業官吏及び農學教育主權者等の之れを等閑に附して居た罪であり、又營利以外考へが無く技術の價値を忘れて居た製絲家の罪でもある。已に本校に於いては今尙ほ其の形体を依然として保つて居るのを見ても明かであらう。結果からすれば國の方針は擧

馬の喰はぬ豆(蛋白質織)

六川 忠一 期

卒業してから長い事學校に厄介になつて居た謂は親の腰かじりの自分が、今迄あまり注意もしてゐなかつた満洲大豆から羊毛代用の人造纖維を作らんとする仕事に従事する様になつて早や一ヶ年以上を過してつた。

になつたら遊びに来てくれると云ふて来たがその秋も目の先になつて来て着しい。同君からの手紙では學生が二人實習に来て居ると知らせてくれたが自分も一度彼等に敬意を表し又一方懐かしい氣遣の無いで来て来やうと思つて居たが仕事に追はれて居てはたせなかつた。

奈良の隨筆

一寸 芳一

奈良は名所舊跡の多い所で神社、佛閣、御陵、と敷上げたら際限がない。歴史に趣味のある人が研究するには最も好適の地であることは今更喋々言ふまでもない又建國の靈地には橿原神宮があるから、八紘一宇の精神を涵養するのにも好適地である。

松尾城下に笠を負ふて學んだ、本間久氏(絲八)、中尾知則氏(十九)、櫻井卓三(絲十二)、加茂小四郎氏(絲二五)、柳澤とわ嬢(敦五)諸氏の勤務してゐる繭檢定所は 春過ぎて夏來にけらし白妙の 衣ほすてふ天の香久山

と歌はれた香久山及耳成山、畝傍山即大和山を基點として三角形にすれば其の中に聳えておつて、橿原神宮までは約一、三町ある、又萬葉集に有名とやら飛鳥川の清流は直ぐ側を流れてゐる、來所折は省線の畝傍驛、電車の八木驛で下車して畝傍山の東北の方向へ約十町テクレば來られるが自動車を利用すれば譯はない。

紀元二千六百年祭の準備として目下神宮の聖域を擴張してゐるが、グラウンドに參道に植樹に大馬力だ電車とか家屋の移轉は第二期工事になるらしい。

燈臺元暗しの壁に洩れず詳しい事は知らぬが兎角偉い事だ、役所に居つても毎日土運びの發動機音、勤勞奉仕の音楽が勇ましく洩れて來る。

外苑は所謂公園になつて其の中にグラウンドが出来るが其のグラウンドは三万坪と云ふ大規模のものだ。そして青年團、學生、一般府縣民等の勤勞奉仕に待つらしいが八月一日現在にて早や延人員七万人が愛

汗奉仕をしてゐる、計畫は百万人の人手によつて仕上る由、兎角多人數で建設する所に意義があるさうだ。

大和三山は勿論のこと、藤原鎌足公を祭つてある俗稱關西の日光なる多武峯、楠公奮戦の地にして海拔一一二二米の金剛山、曰く吉野朝時代に由緒ある吉野群山、曰く金剛に因り又神武天皇天神地祇を祭り大考を宣へ給へる鳥見の山、さては産業都市大阪と界せる生駒山など居ながらにして雄大な景色を眺め、背を偲びつゝ語れるのである。

筆者は去る八月一日に橿原神宮へ行つて八咫鳥旗下に勤勞奉仕をした。

雨天ではあつたが支那に於て聖職をしてゐる皇軍の勞苦を思へばなんでもないと云ふ小氣慨に燃えておつた。

さてお粗末乍ら當日の模様を點描して見ませう。筆者在住の八木町は千戸ありまして一戸一人宛と云ふお達しなので町民として出た譯だが其の日は七百人と云ふ好成绩だつた。

奉仕團一同午前六時に小學校に集合、町長引率の下に橿原神宮に參拜所定の儀式をなし町長は聖職を拜受した。それより一同はすでに神宮にて準備してあるモッコ、鋤、鍬、等作業道具を思ひ／＼に受取り神宮より東方約千米の作業道場に行進した。

注意があるので朝十時より夕三時迄とした、晝食は皆自家製の日の丸辨當に香鼓を打つた。後で中等學生の手によつて作られた八紘會など見學し一時間休憩をなし英氣を養ふ。そして作業道場の高臺より指揮者の號令により何千人と云ふ人が正一時に再び作業に従事するのである。

午後各十五分間休憩があり又作業中は愛國行進曲、日の丸行進曲、赤十字婦人從軍等レコーダを懸けてくれるので土掘り、モッコ持ちを面白く送る事が出来終了後は皆今日は「ホント」に良かった我れ務を果せりと云ふ氣分に充ちてゐた。

其の日は神戸、大阪よりは澤山の學生や町内會、會社工場等より來て合計六千人位の人員だつたさうだ。

奉仕作業場たるグラウンドは神宮より東方約千米の處であるが、このグラウンドの直ぐ東方に十五間道路が作られる。

現在の橿原神宮の電車の驛は神宮より一五〇米位南東へ移され綜合驛が出来るので大軌の橿原神宮前驛、大鐵の橿原神宮前驛なんて云はなくても良いことにならう、そして其處より參拜道場になるから非常に神々しさを増すことゝなる。附近の家屋は十五間道路以東に移轉される譯ですが目下の處家の移轉には着手して居らない。樹木の移植も盛にやつてゐます。大体素人の見聞記以上の如くである。

八木町は奈良縣の中心で通勤に便利なので竹不可止君(蠶二〇)が此の地に新家を構えてゐる、時々談笑のチャンスがある。琳瑯相利しちよい／＼大阪に行き活動や芝居で時局の認識を深め、情操の陶冶に努めて居るとのことだが幸多かれと祈る次第である。(以下次號)

(一九三八、八、三〇)

上田便り

省營新鹿澤温泉入り 新鹿澤温泉入口より同温泉まで省營バス乗入實施は来る十五日より行はれることとなり温泉客に非常に便利となるわけである同温泉現在客は時局の影響を受けて四百餘名で昨年の約半數である。

農村食改善 上田高女では来る二十一日から二十四日迄四日間營養料理講習會が開催され農村食料改善を研究、農業者の長期間労働に堪へられるやう簡易で安値をモットーにグイタミを多く含むカロリーに富む食料を研究するわけである。

菅平生物研究所第一期計劃竣工 文理大學菅平生物研究所は今回講堂、研究室等が完成したので二十四日竣工式を舉げ、同研究所に於ては目下寒地高地性動植物性能の詳細なる研究を行つて居り滿洲國畜産動物の飼育研究、同國農作物の栽培研究、同國有田植物の研究、藻草牧草等の研究を行つてゐる。

バルブ材の濫伐対策 上小地方のバルブ材針葉樹林（赤松、檜）が濫伐される現狀に鑑み本縣では對策として増林を奨励その場合に補助金を下附することになり十七日上小經濟部出張所へ通達あつたが本月廿一日までに私有林社寺有林に限り申請すれば助成金が下附される。

上田に職業相談所設置 物資動員員に基き離職者が多數に出るので上田職業紹介所ではこれが轉業、職業輔導に萬全の策を講ずる事となり今回市役所紹介所事務室に上田地方離職者職業相談部を設け職員總動員で失業者の根絶を期する事になつたが既に純綿禁止に伴ひメリヤス職工、足袋職工皮革禁止に伴ひ製靴職工等が早くも身の振り方を相談するのて軍需工業方面へ振り向けるべく中央と連絡をとりつつあるが同相談部では離職者に對する職業相談並に就職斡旋、轉職指導、職業輔導等であるが同紹介所では市町村長警察署、上小經濟部、上田商工會議所、とも協力して離職者に不安を與へないやうに準備を進めてゐる。

上小地方災害地養蠶助成金 災害地地方養蠶業改善施設につき過渡期（助成金を申請したところ左の通りの配付を見た）小縣地方 △桑園改植一千アール一千五百圓 △夏秋蠶種共同購入七千八百八十グラム五百五十三圓 △桑樹病枯病豫防

刺購入一万アール七百圓合計二千七百五十三圓五十錢 上田市分 △桑樹病枯病豫防刺購入七百アール四十九圓 △事業實施指導方針、イ、一園地二アール以上の桑園改植、ロ、桑林の採取は十二月末日迄植付は四年三月十五日迄である、桑園の整理は天地返し又は溝掘りとなす、ニ、桑品種は本縣獎勵品種、ホ、蠶種は縣指定品種、ヘ、石灰硫黄合剤又は昇水水で消毒實施別は一組合十アール以上。

上田便り

刺購入一万アール七百圓合計二千七百五十三圓五十錢 上田市分 △桑樹病枯病豫防刺購入七百アール四十九圓 △事業實施指導方針、イ、一園地二アール以上の桑園改植、ロ、桑林の採取は十二月末日迄植付は四年三月十五日迄である、桑園の整理は天地返し又は溝掘りとなす、ニ、桑品種は本縣獎勵品種、ホ、蠶種は縣指定品種、ヘ、石灰硫黄合剤又は昇水水で消毒實施別は一組合十アール以上。

上田便り

刺購入一万アール七百圓合計二千七百五十三圓五十錢 上田市分 △桑樹病枯病豫防刺購入七百アール四十九圓 △事業實施指導方針、イ、一園地二アール以上の桑園改植、ロ、桑林の採取は十二月末日迄植付は四年三月十五日迄である、桑園の整理は天地返し又は溝掘りとなす、ニ、桑品種は本縣獎勵品種、ホ、蠶種は縣指定品種、ヘ、石灰硫黄合剤又は昇水水で消毒實施別は一組合十アール以上。

上田便り

刺購入一万アール七百圓合計二千七百五十三圓五十錢 上田市分 △桑樹病枯病豫防刺購入七百アール四十九圓 △事業實施指導方針、イ、一園地二アール以上の桑園改植、ロ、桑林の採取は十二月末日迄植付は四年三月十五日迄である、桑園の整理は天地返し又は溝掘りとなす、ニ、桑品種は本縣獎勵品種、ホ、蠶種は縣指定品種、ヘ、石灰硫黄合剤又は昇水水で消毒實施別は一組合十アール以上。

上田便り

刺購入一万アール七百圓合計二千七百五十三圓五十錢 上田市分 △桑樹病枯病豫防刺購入七百アール四十九圓 △事業實施指導方針、イ、一園地二アール以上の桑園改植、ロ、桑林の採取は十二月末日迄植付は四年三月十五日迄である、桑園の整理は天地返し又は溝掘りとなす、ニ、桑品種は本縣獎勵品種、ホ、蠶種は縣指定品種、ヘ、石灰硫黄合剤又は昇水水で消毒實施別は一組合十アール以上。

母校ニユース

小泉所講師の新任 上田中學校勤務の傍ら昭和十一年四月より母校の講師を嘱託され農業経済学の講義をされてきた小泉所氏は今回中學校の方を止め母校専任の講師として農業経済及び語學を講義される事となり八月一日付を以て任命された。同氏は小縣郡泉田村の出身大正十二年上田中學校を卒、松本高校を経て京都帝大經濟學部に學び昭和八年卒同大學院に入學同十一年迄在學せられた當年三十三才の新進氣鋭の經濟學士である。因に現臺北帝大助教授理學博士小泉清明氏(蠶十二)は同氏の令兄である。今後益々御奮闘あらん事を願ふ次第である。

内ヶ崎文部次官來訪 八月一日からグライターのユニットピア菅高原に開催されたグライダー訓練大會に其の状況を視察に來られた内ヶ崎文部次官は十一日母校を訪れられ、折から實習中の製絲科一年生の發達状況を視られた後、全生徒並に休暇中にも出勤中の職員に座談的に製絲業の歴史的觀察から其の重要性に亘りたる事並に實習が精神鍛練上有意義なる事を語られ生徒を激勵されと共に一同に非常な感銘を與へた。

故新村幸三氏遺骨を驪頭に懸置 五月山東省に於て名譽の戦死を遂げられた故新村幸三氏(絲十九)の御遺骨は八月十一日宇都宮兵營に於て合同慰靈祭を施行され十二日午前六時二十六分上田驛を通過上伊那の養家に無言の凱旋をされたが當日母校職員多数は上田驛構内に於て謹んで弔意を表した。

故手塚軍曹外五氏の無言の凱旋 昨年七月應召し京漢線方面に活躍、二月十三日名譽の戦死を遂げられた故手塚達郎歩兵軍曹(蠶二一)の外、當上田市出身の故滋野實軍曹少尉、故片岡孝夫歩兵軍曹、

故成深盛一步兵上等兵、故日尾武雄歩兵上等兵の英靈五柱は八月十二日午後四時三十五分上田驛着にて無言の凱旋をなした。市内各種團體は勿論一般市民も立錫の餘地無き程之を出迎へ、母校職員生徒一同も參集して弔意を表し、更に職員及び生徒代表は故手塚氏實家迄赴き焼香英靈に對し冥福を祈り御家族に對し慰藉の詞を述べた。

清水英一氏退職 五月二十一日より母校製絲科に勤務されて居た清水英一氏(蠶二二)は今回千葉縣農林技手を拜命同縣蘆花定所に勤務されることになり八月十二日母校副手を退職して赴任された益々御發展あらんことを願ふ次第である。

戸塚一氏應召 本年四月から母校病理學教室に副手を勤められて居た戸塚一氏(蠶二四)は日頃口癖の様に「近く御召しが来ますからね」と意氣込んで居つたが○月○日休暇中○○を受け翌日學校に來て業務を整理し養蠶科職員會及び副手會の壯行會に臨み其の翌日學校職員全部の壯行會に臨み直ちに職員生徒一同の見送りを受けて勇躍出發一旦郷里岩村町へ歸つて○○日○○隊へ入隊された。

辯論部巡迴講演 母校辯論部部士土屋久雄(蠶三)富永泰一(絲三)河野英記(絲二)川合久(紡二)の四君は部長香山助教授が出張不在中なので總務部特別委員である市原副手に引率されて八月十七日出發一週間の巡迴講演を行った。演題、日程は次の如くである。

Table with 2 columns: Topic and Location. Topics include '明るい生活', 'エプロンガール(働く女性の覺悟)', '自己反省', '埃抄', '昭榮製絲小山工場'.

十八日 多勢丸多製絲工場 (福島縣伊達町) 十九日 長谷川製絲工場(山形縣上五山) 二十日 松岡製絲工場(山形縣松楸町) 廿二日 碓氷社高崎工場(高崎市) 尚前記各工場並に仙臺の相村貢氏には非常な歓迎に預かり一同深く感謝してある由。

佐藤利一教授御講演 佐藤利一先生は八月十七、八、九の三日間山形縣養蠶業組合聯合主催の晩秋蠶對策講習會に招聘されて同縣赤湯、上之山、新庄の三箇所にて「晩秋蠶と蠶病豫防」と言ふ題にて講演された。

櫻原神宮修築費中へ獻金 大和國官幣大社櫻原神宮では皇紀二千六百年に當り吾國曠古の一大記念事業として社殿の修理、整飾、境域の擴張、造苑、參道の築造、驛舎、線路の移設及び青年道場、學生兒童無料宿泊所、參拜者荷物預休所等の建設を行ふべく其の事業費を廣く獻金を仰いでゐるが母校でも職員一同俸給の二分の一を獻出合計金三十一圓也を同神宮々司宛獻金した。

蠶一生徒合宿養蠶實習成績 八月一日より宮坂講師、鏝塚、瀧澤兩副手指導の下に實施された本年最初の蠶室合宿實習成績は學修上にも、訓練上にも、非常な好成績を収めて二十四、五兩日に亘つて上簇、三十日收繭を終り飼育費及び合宿生活を解散した。九月一日製絲科に渡された收繭量は上繭二二〇k.gr.(五八貫)中繭二二k.gr.(五貫強)玉繭二二k.gr.(五貫強)で、飼育品種は左記五種である。

Table with 2 columns: Name and Amount. Names include '河野英記', '富永泰一', '市原政治', '昭榮製絲小山工場'.

係長からあり、母校では職員一同俸給二百分の一を獻出し合計金二十八圓九十五錢也を八月三十日贈つた。

香山助教授、授藤原講師歸校 去六月十五日上田を出發滿洲國奉天省の某紡績會社の委嘱に依る全會社のミュール据付並に滿支視察に出られた兩氏等は同月瓦房店に到着、それより約二ヶ月据付工事を指導監督され、其の間暇を見られて滿鐵沿線をハリピン迄視察し八月二十一日、据付を立派に成就されてそれより北支方面、北京、天津等を視察され八月三十一日無事歸校された。

座球定期中止 例年今頃行はれる東京高蠶との座球戦は本年八月三十一日に豫定され三十日に選手一同は部長倉澤教授に伴はれ必勝の元氣一杯に上京したが、折から關東地方は非常なる風雨にて試合は全く不可能の爲本年は中止する事となり選手一同は落膽して歸つて來た。

弓道部小諸に遠征 八月二十日から三十日まで合宿、早朝から猛練習をしてゐた弓道部では三十一日小諸町に遠征、地元小諸商業學校並に折から懐古園に合宿練習中の東京高等師範學校弓道部と、懐古園道場に於て對戦した。

Table with 2 columns: Match and Score. Matches include '第一回戦', '第二回戦', '第三回戦' with scores like '一六中', '二四中', '一四中'.

滿洲國中等學校教員檢定試驗問題

左に掲載せるは滿洲國牡丹江省立寧安師道學校に勤められる須藤清吉郎氏(蠶一六)から母校倉澤教授宛に送られた同國中等學校教員檢定試驗問題の一部であるが、同國教育界に進出して貢獻したいと希望の諸兄もあると思はれるので同教授の御厚意により掲載せるものである。御參考になれば幸である。(本問題は滿洲文と日本語で記されてあるが後者ののみを載せた。)

- 滿洲國中等教員檢定試驗問題
第一回(限二小時)
一、主要なる造岩礦物を、實例を擧げて説明せよ。
二、滿洲に於ける主要火成岩に就て説明せよ。
三、耐火粘土に就き知れる所を記せ。
(一)耐火粘土
(二)菱苦土
(三)燧石
(四)磁鐵
(五)滑石
四、滿洲産主要化石を、其の時代別(地質時代別)に列擧せよ。
第二回(限二小時)
一、動物界を八類に分類し、各類の特徵を略記し、且つ各類に屬する動物各三種以上を擧げよ。
二、蛙の解剖實習に關し、指導要領を記せ。
三、蠅の生活史(Life History)を記せ。
四、左の術語を説明せよ。
(一)寄生(Parasitism)
(二)相似器官(Analogous Organ)
(三)内分泌(Internal Secretion)
(四)第二雌形質(Secundary Sexual Character)
(五)内胚葉(Endoblast or Endoderm)
第三回(限二小時)
一、雙子葉植物と單子葉植物との莖の内部構造を比較説明せよ。
二、呼吸作用を説明し、並に其の實驗法を示せ。(實驗圖を要す)
三、被子植物の授精に就て、詳細に説明せよ。(圖を要す)
四、滿洲産針葉樹の種類五種を擧げよ。
第四回(博物通論) (限一小時半)
一、生物が無生物と異なる點を列擧せよ。
二、メンデルの法則(Mendelism)を細胞學上より説明せよ。(圖表を要す)
三、地質學上より見たる進化論の證據を説明せよ。

校歌レコードの頒布

待望久しきレコード成る。針塚先生の肉聲は真に迫りて恰も親しく鶯歌に接するが如く、校歌三唱、亦、自ら懐舊の情、感激の涙禁する能はざるものあり、新作の校友會歌は現代樂壇の巨匠橋本邦彦先生畢世の力作にして、歌風の典雅、調子の勇壯なる、歌詞と共に克く上田の環境を魂を歌ひ得て餘りあり。

- 一、代價 一枚 金貳圓 (荷送り送料共)
一、申込場所 本會内久保藤一宛
申込と同時に現品發送す

出征會員慰問資金募集

出征會員慰問資金を募集致します。昨秋の代議員會に於て決定致しました慰問事業實行には左記の通り經費を要します。然るに寄附金總額は別項登載の通りであります。何卒本會設立の趣旨御承の上奮つて御献金賜はらん事を御願ひ致します。

應召者並に召集解除者に就て御願ひ

- 一、應召者に就て
應召された場合は其の旨本會迄御一報願ひます、本紙會員動靜欄へ登載以外に應召會員御承知の方は左記事項至急本會迄御通報下さい。
1、應召者氏名
2、家族の現住所及氏名(留守中の通信先)
3、所屬部隊變更に就て御願ひ
軍務御多忙の際甚だ御迷惑の御願ひを恐入りますが所屬部隊變更なされた場合は其の旨御一報願ひます。
三、召集解除者に就て
召集解除となつて歸郷せられし場合は直に御一報願ひます。

日本蠶絲總覽廣告

御案内の日本蠶絲總覽は一目瞭然我蠶絲紡織の重要資料を簡潔に餘す處無く登載し、御多忙の各位に御便宜を計る心算で編輯して居ります。御愛讀を乞ふ。

發行所 長野縣上田市常入 蠶絲科學研究會 (振替長野六四一三)

本會記事

針塚長太郎先生謝恩 第三回 記念資金申込報告 九月五日現在

Table listing donors and amounts for the memorial fund. Includes names like 金四拾五圓也, 金貳拾圓也, etc., and a total of 金貳千四百四拾五圓也.

會費領收 (九月五日現在)

Table listing members and their dues for the year. Includes names like 松野正一(蠶一), 北村一郎(蠶二), etc., and a total of 金貳千六百九拾貳圓五拾錢也.

十三年度會費に就て
通常會費は本年度より振替拂込用紙にてお願ひいたしました。處分期限以上多數の各位より御拂込に接し誠に感謝に堪えません。しかも今尚續々と御送金に接してゐる次第であり、すが集金郵便に比しはるかに手數と經費を節減し得るものにつき是非此の際先般御送附いたしました振替用紙御利用の上御送金の程切望いたします。

故金子教授遺兒養育資金募集急告

謹啓時下殘暑の候益々御清穆の段奉慶賀候
陳者豫而御案内申上置候故金子教授遺兒養育資金募集の申込期間は已に経過致居候就而日頃御多用の爲御失念の方は此際至急御申込被下様折入つて奉懇願候
尙拂込方法は九月末迄分割御差支無之候
昭和十三年九月
故金子教授遺兒養育資金募集事務所
井上柳梧

故金子教授遺兒養育資金申込分報告 (第五回)

金五拾圓也 高橋 務
金貳拾圓也 櫻井勇太郎
金拾圓也 中島 眞 遺藤 正壽
田上 政敏 岩本 一郎
金五圓也 安川 彦五 松生 義勝
金參圓也 藤本 源吾 加藤 明
濱井 壽夫 白澤 幹 天野 銀藏
森山 二郎 黒岩 君雄 内海 弘
金貳圓也 森山 甫 洛 高馬 一郎
和田 幸一 野本 信次 千賀崎 義香
辻本 勇 立岩 笑保 原 利夫
金壹圓也 濱井 成一 原 利夫
管尾 源治 岩下 龍哉 北澤 周一
三澤 讓 渡邊 善次
計金百六拾五圓也
通計金四千九拾四圓也

蠶絲學雜誌十卷四號紹介

蠶絲學雜誌は左記の内容により發行いたしました。已に配本致しました。本號は特に金子先生の記念號といいたしました。尙第十一卷の原稿も至急御惠投下さる様御願ひ申上ます。

八月 蠶絲學雜誌編輯係

第十卷第四號(故金子博士記念號)目次 (昭和十三年六月)

- 金子博士の業績 眞木 元 二六二
- 追 念 井上柳梧、浦生俊興、小松忠一郎 二四一
- 研究報文抄録 A—H 二四二
- 報 文 二六〇
- 一、赤瘰病菌の蠶蛆に對する寄生性 岡部 康之 二七二
- 二、桑樹再生曲線の研究 岡部 康之 二七二
- 三、摘摘、摘葉に依る再生全芽並に母枝條柔葉の粉末比重の變化 岡部 康之 二七六
- 四、蒸葉法に依る家蠶蠶蛆驅除に關する試験 (三)特に蒸葉の耐熱性及に熱處理桑の性状に就て 山口 定次郎 二八三
- 五、繭絲の色澤の研究 第一報黃繭絲の色相に就て 宮坂 收 二九七
- 資 料 山口 定次郎 三〇三
- 一、繭絲織度に影響を及ぼす二、三の要因に就て 山口 定次郎 三一
- 二、蠶師の氣門に於ける寄生蠶蛆の分布 山口 定次郎 三一

故金子教授遺兒養育資金募集急告 (第五回)

金貳拾圓也 櫻井勇太郎
金拾圓也 中島 眞 遺藤 正壽
石倉新十郎 田上 政敏 岩本 一郎
松野目晴貞 内田 浩
金七圓也 關 三四郎 古村 誠一
金五圓也 安川 彦五 香掛 久雄 行元 自忍
依田 啓藏 小見 益男 山口定次郎
松生 義勝 志賀 章雄 加藤 明
金四圓也 藤本 源吾 濱井 壽夫 手島 幸一 高橋 眞澄
濱井 壽夫 阿久澤 孝典 湯原 諄
宮下 丈夫 宮下 和三郎 天野 銀藏
小林 清丸 森山 二郎
横山 良毅 黒岩 君雄 内海 弘
金貳圓也 小田 忠十郎 塚田 銀麿 的場 小六
鈴木 教吾 陶山 專三 山本 孝三
太田 良信 森山 甫 洛 高馬 一郎 川中 貞次
篠田 平三郎 高馬 一郎 川中 貞次
野本 信次 千賀崎 義香 岡村 源一
都筑 賢吉 細川 豊 塚本 優
金壹圓五拾錢也 小水 曾眞 佐雄
金壹圓也 濱井 成一 西原 淳一
管尾 源治 岩下 龍哉 北澤 周一
花岡 政庫 原 利夫 金崎 眞英
三澤 讓 渡邊 善次
計金貳百貳拾六圓五拾錢也
通計金參千參百貳拾七圓九拾錢也

故金子教授遺兒養育資金募集要項

- 一、金額 御隨意
- 一、締切 九月末日(御申込と同時に御拂込下さるも差支無之)
- 一、振替口座 長野壺參〇貳貳番 上田蠶絲專門學校内 故金子教授遺兒養育資金募集事務所 井上柳梧

叙任辭令

舊職員之部 從五位勳四等 谷 弘
叙勳三等授瑞寶章(七月十五日)
母校之部
上田蠶絲專門學校教授 大瀧昭太郎
從四位勳四等
叙高等官二等
上田蠶絲專門學校教授 遺藤保太郎
勳任官ヲ以テ待遇セラル(以上八月十七日)
同 倉澤 美德
叙高等官四等(九月一日)
叙ニ依リ副手ヲ免ズ(八月十二日)
卒業生之部
公立實業學校 原 茂
同 齋藤 格次
陸シテ高等官六等ヲ以テ待遇セラル(以上八月一日)
從七位 新庄哲二郎
同 福島綱治郎
叙正七位(以上七月十五日)
地方農林技師 三好彌市
熊本縣農林技師ニ補ス
十一級停下賜(八月十日)
長野縣農林技師 水谷 郷一
地方農林技師ニ任ス
高等官七等ヲ以テ待遇セラル
新潟縣農林技師ニ補ス(以上八月十七日)
母袋忠右衛門
叙正八位(七月十五日)
公立實業學校教諭 天田 晉三郎
滿洲國へ出張ヲ命ス(八月二十二日)
從七位 原 茂
叙正七位(八月十五日)
三重高等農林學校教授 篠田 平三郎
叙高等官四等
公立實業學校教諭 石濱 正巳
陸シテ高等官五等ヲ以テ待遇セラル(以上九月一日)

御挨拶

拜啓平素は御無音にのみ打過ぎ誠に申譯無之の段御寛恕被下度候
陳者小生今般兼務たりし上田中學校を辭し本校に専ら勤務致すこと相成候に付ては今後とも宜しく御教導御鞭撻被下度奉願上候
先は御挨拶のみ申述候 敬具
上田蠶絲專門學校 小泉 所

御挨拶

謹啓殘暑之候愈々御快適被爲涉奉賀候
陳者小生儀久敷に巨り新潟縣在職中は公私共格別なる御懇情を辱ふし向に難有奉深謝候今般兼務縣へ轉補拜命去日着任仕候に就ては向後共一層の御指導御鞭撻賜り度奉懇願候
先は御挨拶のみ申述候 敬具
如斯御座候
勤先 熊本縣農林技師課 三好 彌市
自宅 熊本市大江町本三八六

御挨拶

謹啓私事長野縣蠶絲組合小組支部在職中は公私共格別なる御懇情を辱し難有奉深謝候今般兼務會に勤務仕ることに相成候に就ては向後共一層の御指導御鞭撻賜り度奉懇願候
先は御挨拶のみ申述候 敬具
勤先 熊本市中區北仲通(帝蠶ビル) 大日本生絲販賣組合聯合會 自宅 熊本市中區弘明寺町一五一

御挨拶

謹啓時下向暑の砌益々御清榮の段大賀候平素は御無沙汰に御任を命ぜられ陳者私儀今般兼務に就候に付ては今後とも宜しく御教導御鞭撻被下度奉願上候
先は御挨拶のみ申述候 敬具
上田蠶絲專門學校内 故金子教授遺兒養育資金募集事務所 井上柳梧

戰地通信

後藤健雄氏(舊職員)より

先生御久し振り。遙かに承れば先生には...

鷹野睦二郎氏(學生)より

暑中御伺ひ申上ます。先生には今春より...

山崎保太氏より

拜啓暑中御伺ひ申上げ候御無沙汰に打...

小林重男氏より

炎暑激し折柄如何御消光被遊候や御...

上木忠士氏より

酷暑の折柄皆々には益々御壯健の御...

鷹野睦二郎氏(學生)より

暑中御伺ひ申上ます。先生には今春御...

星野莊次氏より

其の後は暫く御無沙汰致し候。初秋之...

願ひ申上候 八月廿日 (針塚先生宛)

願ひ申上候 八月廿日 (針塚先生宛)

願ひ申上候 八月十四日 (校長宛)

願ひ申上候 八月十五日 (千曲會宛)

願ひ申上候 八月二十日 (針塚先生宛)

十餘萬城壁の周圍四里餘河南の首都であつて日本の都市に劣らぬ立派な町です二十日開封出發新郷に向ふ折黄河に臨めば會て敵前渡河せし濁流濤々として雄大な黄河無道極りなき支那兵の堤防決潰により今や一滴の水もなく人馬は勿論自動車でさえも悠々通れる珍現象に一同辟を上げて驚きました焦作附近の山嶽には鐵石炭等の天然資源が豊富です焦作には英國支配での建築物多く新興の都市に町も立派です附近に敗殘兵出沒し頻々として鐵道爆破をなし誠に油斷のならぬ情況です統後の皆々様の限りなき御熱誠に酬ゆるべく眞の明朗北支建設のため益々奮勵致す覺悟故相變らずの御指導御鞭撻の程お願いす近況まで

七月二十五日 (針塚先生宛)

三澤讓氏より

殘暑御伺ひ申上ます長らく御無沙汰致しました失禮の段御許し下さい御蔭様にて小生北滿にて警備の任に當つておます母校に於ける變動も教友より聴きました金子先生の逝去校長先生の變動等皆御伺ひ申し上げなければならぬ所を御無沙汰致しました。北滿の此處海拉爾の同じ部隊に紡二十四小林典夫君、二十四木君等が来て一語に頑張つておます廊下演習中等で會ふとすぐ母校の話上田の話のみです。懐しいのは學生生活です。海拉爾は軍事都市で人口十萬位あるかと思ひます自系露人もあれば滿人は勿論鮮人日本人蒙古人支那人等世界の人類展覧會みたいな所で街を歩くのも愉快です而し暑さと荒塵とは閉口致します二頭立の馬車に乗つて古い建物の間を縫つて行く漢國時代の様な支那風景を見る事が出来ませう皆々様によるしく

(千曲會宛)

支會通信

林教授歡迎會

朝鮮千曲會

殘暑殊の外酷しき折柄同窓諸兄には愈々御健康の事と存じます。少々舊開作らるる五月十三日當地に開催された乾誦講習會に講師として御來朝の林教授を迎へて歡迎會を開き、在城中の會員集まり、先生を中心に母校及び同窓諸兄の御消息を拜聴し、懷舊談に花を咲かせ盛會でした。記念寫眞一葉御清覽に供します。

前列右より 伊藤猛、矢澤支會長、太田清藏、林教授、北澤茂、大崎征内、後列右より 内藤次郎、由井千幸、鈴木玄九、高松珍夫、牧野春雄、林謹一、荒木康男の諸氏 以上

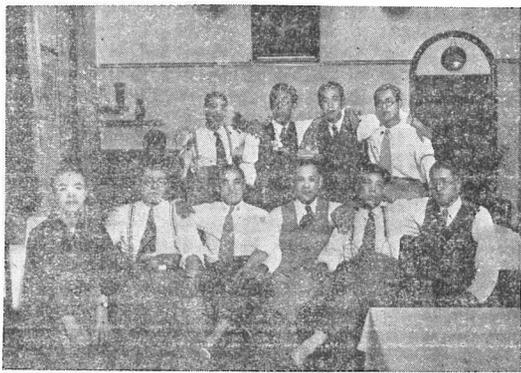


蠶二五小集會

本春若人の意氣揚々と母校を巣立ち實社會に踏み出した蠶科第二十五回卒業生の中徴兵検査にて懐かしの故郷に歸つた數名を迎へ母校に健闘する塚田、市原、瀧澤、阿形の計らひで七月七日の一夜香青軒に會合し、思ひ出に浸り、實社會の感想を語り、或は若き經驗、苦しみ體驗、甘いエピソード等を語り合ひ涙ぐましく程に愉快な時を得た。

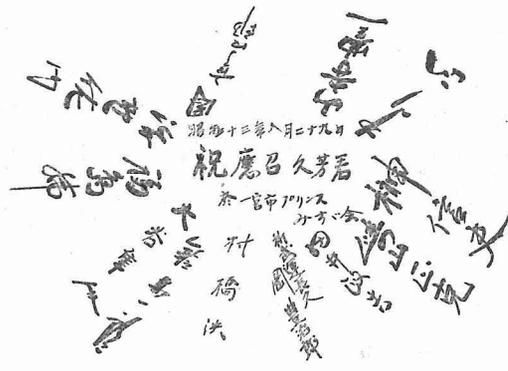
此の嬉しかりし機會のあつた事を當夜會する事の出来なかつた、異郷にあるクラスメイト各位に紙上を借りて報知して

この喜びを頷つと共に其の安否を問ひ、併せて健在ならん事を祈る次第である。寫眞は前列右より 市原君、岡田君、兒玉君、佐藤君、塚田君、瀧澤君、後列右より 堀口君、中村君、清水君 (阿形記)



久芳氏壯行會

今回同窓生久芳大三氏(紡一六)が應召されましたので八月二十九日夕當市ブリンズに於て心許りの壯行會を開催致しました。之は當日の寄書です。久芳氏の武運長久を衷心より祈る次第です。一ノ宮市 みすゞ會



計報

弔慰金募集

故山口永太郎氏(蠶廿一) 故伊藤柳作氏(蠶廿一) 右二氏に對し弔慰金を募集致します弔慰金は十月末日迄に取纏め御遺族へ贈呈致したいと思ひますから夫れに間に合ふ様振替口座東京四三三四一番へ夫々故人に對する弔慰金の旨御記入の上御拂込下さい。 昭和十三年九月

千曲會

弔慰金報告

- 故笠原松平氏弔慰金第四回 金五圓也 手塚政吾 小島 求
- 金壹圓也 石坂虎治郎 松岡 洩
- 横山英一 町田 博
- 右合計金拾圓也
- 累計金拾圓五拾錢也
- 故藤澤重一氏弔慰金第四回 金貳圓也 岡 亭四郎
- 累計金拾圓也
- 故菅野三郎氏弔慰金第四回 金壹圓也 深谷正一 柄澤富雄
- 右金四圓也
- 累計金拾圓也
- 故新村幸三氏弔慰金第三回 金貳圓也 井上保雄
- 金貳圓也 中尾知則
- 金壹圓也 武川 勇 關 幸治
- 望月 弘 塚田庸男 滋野文雄
- 右合計金拾圓也
- 累計金七拾參圓也
- 故山口永太郎氏弔慰金第一回 金貳圓也 市瀬武壽
- 金壹圓也 運沼光治
- 右合計金參圓也
- 故伊藤柳作氏弔慰金第一回 金貳圓也 高島秀男

伊藤柳作兄

小林 茂樹

去る八月十五日久し振りにて墓參歸郷の際、母校蒲生教授を訪ねし處、伊藤

藤兄には七月下旬宿病の中風症が昂じて勤務地高知縣に於て急逝されしを聞く、愕然自失、夢の様には思はれた。想へば君とは長い交遊を續けて来た。明治四十年頃、上田中學校に通つた當時確か君は二年ばかり僕より下で舊姓久保田と云ふてあの元氣で弊衣破帽下駄穿きで長瀬から徒歩通學をし僕も縣村加澤から徒歩通學をした。夏などい歸りによく岩下の太鼓岩邊で共に水泳をした。冬は柔道の寒稽古をすませて遅くなれば神川橋畔の餅菓子屋で鐵砲餅(當時一ツ五厘)を頬張つたものだ。それ等もみな想へ出の種である。母校開校當時共に入學して型通りの三ヶ年の課程をすませ大正三年實業界に飛び込んだ。

爾來幾星霜、君は比較的環境に恵まれたと云ふ方ではなかつた。然し身體が頑強で正直の性であつたから何處へ行つても頭張り通し、特に僕の今居る下伊那の蠶業關係者より今尚よく時々君のよき噂が出来る去つて其の人の力や徳を慕はれ、楮を覆ふて後眞價定まるとは蓋し君にあるはまる事と思ふ。卒業後學校に少しの間勤め後廣島縣府中、伊那社、天草製絲、安曇社、甲府矢鳥社、土州製絲と實業界としては比較的多くの個處を轉々とした方だ、君と最後に来る時丁度甲府に居られ一夜久闊を敘し某旅館に於て春宵の更ぐりを知らず語つた。其の時既に身體の調子が少し悪いので節酒をして居られた。其の後僕と全じ組合製絲に復歸高知へ赴かれ、御互に普通の音信を絶やさなかつた。時々縣聯の飯島兄、須田兄、東京の唐木田兄より君の活動振りを承り只管自愛を祈つて居つたのだ。最早や全期のもので御佛となつたもの既に養蠶製絲を通じて十五名に達した其の内養蠶科は兎も角製絲科は比較的所謂駿足と稱せられしものは早逝して居る。有賀兄、田口兄の如く花型舞臺に活躍し居つて居る様だ、轉つて二十有四年の過去を顧み一入今昔の感に堪へぬものがある。昭和九年十月松田敬三君の葬儀に會葬せし時三輪輔君に僕は「内外多事死んでなど居られるかい。其の上松田君の残した仕事もせにやならん」と云ふて阿々大笑別れた事を記憶して居る伊藤君の計報に接し今更に一層鈍馬に鞭たねばならぬことを痛感する。色々と思ひ出を書いて山靜かなる長窪峽、依田川畔に永へに眠れる亡友、伊藤君の冥福を祈る。

